

子供の食事と家庭

長野 飯島八千溪

私の書齋は、ガラス戸で、前が四ツ辻になつて居て、夫れから、向ひは、長家が幾軒か有つて、夫れには、車夫や、大工や、形付や、官吏や其他色々の仕事をする人が住つて居るが、其子供が、時々、此四辻に集つて、嫁取り(の方言)と云ふ事をする。夫れを、心して聞いて居ると、能く家庭の半面が知られて、甚だ寒心すべきものが有る。そこで、何時いつでも、主人役を勤むるは、大概、年かさの、車夫の子で有る。夫れが、他の子供に、差圖さずして、今日こんにちは、お隣のおばさんが、お呼ばれに来るから、お前は、お米を四合買ってお出で、お前は、お味噌を一錢お鹽を五厘、お前は、ランプを持ッ

てお出で、石油を買つてお出で、お前は、今少し立ッて、お呼ばれに来るのだから、夫れまで、向うの、井戸の蔭かげにかくれてお居ると、云はれたは、大工の子で、お前はと、指されたは、官吏の子で、役目はと云へば、お前は、お客さんに、御馳走を、出したら、おねだりをするのだ(噫此一言何事ぞや)お前は、箱脊負(箱を脊負ひて、菓物、野菜、菓子等を賣る婆々の事)におなりと云はれたは、形付の子で、茲に、分署定まり、名々其役に就いた。間もなく、箱脊負が来た、婆々さん、今日は、お金おかしがないから、お米を一合やるから、お菓子と、交換かかんでお呉れ(其子の母の素行思ふべし)箱屋は、去る、買物役は、歸へり来る、お客さんも来る、木の葉の皿に、石ころや、草の葉の、御馳走が出る、そこで、ねだり役の官吏の子が、教へられた

通りねだる、そうすると、主人役の車夫の子が、
コラ此あま何の事だ、お痰をすえるぞ、茲へ手を
持つて来い、猶ほ、ねだる、まだかと、頭を打つ
眞似をする、猶ほ、ねだると、外へ、掴み出して
仕舞ふ、お客が、お謝する、家内總立になって、お
客が終つた之れ子供業とは云ひながら、家庭の有
様を、實際見る心地して、怖ろしく感ぜられた。

記者と讀者

●三河國石川りよし氏へ御答申し上げます。仰
之通り女子高等師範學校に嫗母練習科と申すのが
あります。本年一月から開始せられたので、學力は

高等女學校或は師範學校女子部卒業の程度です。
が、此には只今から入學することは出来ません。

また此次に開始せられるか否かは、まだ分りませ
ん。
(一記者)



七月の天地

ま、か、生

開旦、惠の露にうるはひて、うれしげに生
くと森も林も野も山も、我より先きに静かに醒
めて緑一入うるはし、稀に降る雨には勢殊に盛
なり。

月の三日は半夏生、挿苗略ぼ終はる。炎威追々
に逞しくなり晝過ぎはむせあつくなりぬ、此頃、